

いいて

No.16 2018.3.3



一般社団法人 新潟県臨床検査技師会下越支部

○研修会・総会報告

【平成29年度 第3回下越支部研修会および総会】

日時 平成30年3月3日(土) 14:00 ~ 17:00

会場 下越総合健康開発センター 2階 大講堂

講演1「日臨技の進める臨床検査技師の医療現場における職能向上に向けた講習」

講師 桑原 喜久男 技師 済生会三条病院

講演2「病院を取り巻く採血環境」

講師 石井 一禎 氏 日本バクトン・ディッキンソン株式会社

○研修会

新潟県臨床検査技師会 桑原副会長より、「日臨技の進める臨床検査技師の医療現場における職能向上に向けた講習」と題し、日本の社会情勢の変化に応じた臨床検査技師の業務変化、今後の展望についてご講演頂きました。団塊の世代が75歳以上をむかえる、いわゆる2025年問題で増える医療費や社会保障費削減のため、在宅医療など地域包括ケアシステムが進むことで今後は急性期より慢性期、回復期患者が増え、急性期患者を受け入れている医療機関では病床数が減少、必然的に臨床検査技師の業務も減少が懸念されるとのこと。また、今後は慢性期、回復期患者の在宅ケアで臨床検査技師の力を発揮する場面が増えるだろうとのことでした。さらに現在の臨床検査技師は病棟業務への進出も見られますが未だ確立されておらず、薬剤師から一歩出遅れているという現状も指摘されました。

桑原副会長は社会情勢をいち早くキャッチし対応できる職能を身につけることが臨床検査技師の地位向上と業務確立に繋がると話されていて、臨床検査業務の転機を考えさせられる講演でした。



次に日本 BD の石井さんに「病院を取り巻く採血環境」と題したご講演と実習のご指導を頂きました。講演の冒頭では血液暴露事例としてビデオが流され、事故を報告出来ずにいる若い看護師の心境や、感染防止対策を軽視したベテラン医師の言動など、私たちの身近に起こりそうな場面がいくつかありました。針刺し事故には血液暴露の他に神経損傷もあり、訴訟問題に発展している事例もあるそうです。事故防止にはスタッフの教育や経験も必要ですが安全器具の導入が有効とのお話で、実習では採血後の針がワンタッチで抜去、格納される翼状針や神経損傷対策の短針採血器具も紹介され、実習ではほとんどの方がデモ機での採血を行い大いに盛り上がりました。



このたびの研修会の開催にあたりまして、お忙しい中多大なるご協力をいただきました桑原副会長、デモ機によるレクチャーも丁寧にお教えてくださいました日本 BD の石井様に深く感謝を申し上げます。そして、3月の多忙な時期にも関わらず、ご参加くださいました皆様ありがとうございました。

○総会

会員総数 155 名中、出席者 22 名と委任状提出者 116 名で合計 138 名となり総会が成立している旨の報告がありました。

詳しい総会式次第・決算および予算計画案・総会議事録をホームページ内の「支部からのお知らせ」に掲載いたしておりますので、ご覧ください。



○次回研修会のご案内

日時、会場、内容等は後日、改めて技師会報などにて『ご案内』いたします。